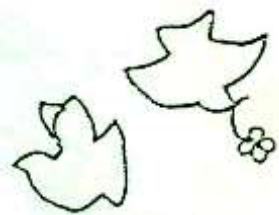


核兵器禁止条約は発効したが 被爆の恐怖は いまだに・・・



'21 安房反核フェスティバル

8月6日(金) 9時～15時

無料

館山市コミュニティセンター (南総文化ホール隣)



展示ホール

第1集会室

「原爆と人間」パネル展示



「原爆の絵」 広島平和記念資料館所蔵

広島市立基町高等学校の生徒と
被爆者との共同制作による
「原爆の絵」35点上映

9:30～ 11:00～ 12:30～ 14:00～

新型コロナ感染予防のため、
入場者が集中しないように4回上映します

DVD 上映

9:05～ 永井博士の思い出 (長崎)
10:20～ ヒロシマの記憶 幻の原爆フィルムで歩く広島
11:50～ あの日 この校舎で ～ 50年前に被爆したナガサキの記憶
13:10～ ヒロシマ被爆者からの伝言

鴨川市でも反核フェスティバルを開きます。鴨川市の方は鴨川会場にお越し下さい。

鴨川市会場 西条公民館 8月1日(日) 13:00～15:30 8月3日(火) 13:00～15:30

主催: 館山市被爆者同友会(会長・谷口 直)

共催: 安房反核フェスティバル実行委員会

後援: 館山市 鴨川市 南房総市 鋸南町 館山市教育委員会 鴨川市教育委員会 南房総市教育委員会

鋸南町教育委員会 館山市社会福祉協議会 房日新聞社 朝日新聞千葉総局 東京新聞千葉支局

毎日新聞千葉支局 読売新聞千葉支局

※連絡先: 古畑玲子 TEL 0470-23-3869

— 高校生が被爆体験を絵に描く —

基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」

広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度（平成19年度）から、被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

この取組は、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。

何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

被爆体験の継承の一つの形として、一人でも多くの方に絵をご覧いただければ幸いです。

原爆の絵

広島市立基町高等学校創造表現コースは美術を専門に学ぶコースとして平成11年に設置されました。本コースの生徒たちは、国際平和文化都市広島に学ぶ高校生として美術を学ぶ中で、「平和」と「文化」について想いを馳せながら日々制作を行っています。

また広島平和記念資料館では、被爆体験証言者の記憶に残る被爆時の光景を若者が絵に描き、当時の状況を伝える「次世代と描く原爆の絵」事業に平成16年度より取り組んでおり、本コースでは平成19年度より継続して、有志生徒が「原爆の絵」の制作ボランティアとして参加させていただいています。

この取り組みは、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っているものですが、何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものでありながら、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

生徒たちは証言者の被爆体験を聴き、想像を絶する光景をどう描くのか悩みながらも、資料を集め、証言者と何度も打ち合わせを行い、10ヶ月かけてこの「原爆の絵」を描きあげました。完成した「原爆の絵」は平和記念資料館に寄贈され、それぞれの証言者が修学旅行生などに被爆体験を話す際に、当時の状況をより深く理解してもらうために使われます。

「原爆の絵」とコメントから、被爆の実相と被爆体験証言者と生徒たちの平和への思いをご覧いただければ幸いです。

広島市立基町高等学校 普通科創造表現コース